

■ 次の英文の要旨を、90字から110字以内の日本語でまとめよ。句読点も字数に含める。 [85年]

① All animals are playing a potentially very dangerous game with their environment, a game in which they must make decisions for which the reward is survival and the penalty for a mistake is discomfort or even death. ② In this game, however, fair play is not to be expected; for, the fact is, it is always rigged in one way or another, and all species cheat in some way. ③ Let us consider two extreme cases: first, our own species as an example of an animal in which responses are almost wholly determined by individual experience. ④ I have a small son. ⑤ The fact that he has survived to the age of two is largely due to considerable care on the part of his normally untidy parents. ⑥ Since he happened to us, we have learned to clear up. ⑦ We hide saws and chisels; we lay ladders flat instead of leaving them propped against things; and we shut the garden gate. ⑧ In short, the boy's opportunities for experiment are kept within limits, so that while he is free to learn by experience, we can be fairly sure that he is not going to hurt himself really badly. ⑨ As he learns more about the world, we can relax the limits. ⑩ It is generally accepted that the full treatment takes about twenty years ... so we have another eighteen years to go.

⑪ This is one way of rigging the survival game. ⑫ The other extreme way is to have the right answers to all potentially disastrous experiments fitted in at the outset. ⑬ For example, any sea anemone knows what is edible and what is not. ⑭ It will grasp food with its tentacles and cram it into its mouth. ⑮ It will reject inedible objects and close up when poked. ⑯ A sea anemone does not learn to do these things; these responses are built in from the outset and they are unaltered by individual experience. ⑰ You cannot teach anything to a sea anemone; it just does not learn.

**Notes** (1) potentially 「可能性として、潜在的に」 rig 「～を不正に操る」 in one way or another 「何らかの方法で」 cheat 「不正をする、ごまかす」 clear up 「片づける、整理する」 chisel 「(大工道具の) 鑿(のみ)」 lay flat 「寝かせて置く」 prop A against B 「AをBにもたせかける」 within limits 「常識の範囲内で、ある程度」 It is accepted that ... 「...と認められている」 ... to go 「あと...」  
 (2) disastrous 「悲惨な、災害を引き起こす」 fit in 「～をなんとか割り込ませる」 sea anemone 「イソギンチャク」 edible 「食べられる」 ↔ inedible tentacle 「触手」 close up 「口を閉ざす」 poke 「～を突く、つつく」 be built in 「(あらかじめ) 組み込まれている」 unaltered 「変更されない」 < alter 「変更する」

### 研究習

#### 〔第1パラグラフ〕

第1パラグラフはやや長いのですが、論理構成ははっきりしており、その方向性はつかみやすいと思われる。

- ① All animals are playing a potentially very dangerous game with their environment, a game [ in which they must make decisions [ for which the reward is survival and the penalty for a mistake is discomfort or even death ] ] .  
 「すべての動物はその環境と危険性をはらんだ勝負を行っている、すなわち、うまく行けば生き残ることができるが、一歩間違えると、不快なもの、さらには死を招くような決断を下さなければならない勝負である」

a potentially very dangerous game がカンマをはさんで同格的に a game in which ... と言い換えられています。in which (先行詞: a ... game) 以下の関係詞節には、さらに for which (先行詞 = decisions) と〈前置詞 + 関係代名詞〉が含まれており、複雑な構造になっています。

- ② In this game (旧情報), however, fair play is not to be expected;  
 〈目説: Topic Sentence〉

for, the fact is, it is always rigged in one way or another, and all species cheat in some way. 〈根拠〉

「しかしながら、この勝負においては、公正な勝負は期待できない。というのも、実はその勝負は常に何らかの点で不正な仕掛けが行われており、しかも、すべての種は何らかの方法で、不正行為を行うからである」

第①文が〈導入〉部分(動物が環境と行う生死を賭けたゲームの紹介)と考えること

ができ、第②文における逆接語 **however** から、自説、および、それに対する〈根拠〉(ここでの **for** は接続詞「というも...」) を述べる展開になっています。**fair play is not to be expected** の部分がこのパラグラフの〈Topic Sentence〉になります。**cheat** は「相手をだます」、すなわち不正行為を行うという意味で、いわゆる試験における「カンニング」も **cheating** です。ここまでをまとめてみましょう。

- ① 導入：すべての動物は環境と生死を賭けた争いを行っている  
 ↓ しかし (**however**)  
 ② 自説：この勝負において公平な勝負 (**fair play**) は期待できない  
 ↓ というのは (**for**)  
 根拠：すべての動物は不正行為を行っている (**cheat**)

ここで、このあらゆる動物が行う「不正行為」とはどういうことか? という疑問が読者の頭に浮かぶのは当然のことで、それを第③文以降で例をあげ説明していく展開になっています。つまり、典型的な〈抽象 → 具体〉の構成というわけです。

- ③ **Let us consider two extreme cases: first**, our own species as an example of an animal [ in which responses are almost wholly determined by individual experience ].  
 「2つの極端な例を考えてみよう。まず、外部からの反応の仕方がほとんど個々の経験によって決められる動物の例として人間を考えてみよう」

**two extreme cases** から、**箇条書きによる〈具体例〉** が2つ述べられることが予告されています。その1つが **first** で始まる部分であり、いずれ第二の例が登場することを予測しつつ読んでいく必要があります。

- ④ I have a small son.  
 ⑤ The fact [ that(同格) he has survived to the age of two ] is { largely } due to considerable care on the part of his normally untidy parents.  
 ⑥ Since he happened to us, we have learned to clear up.  
 ⑦ We hide saws and chisels; we lay ladders flat instead of leaving them propped against things; and we shut the garden gate.  
 ⑧ **In short**, the boy's opportunities for experiment are kept within limits, { so that { while he is free to learn by experience }, we can be fairly sure that he is not going to hurt himself really badly }.

- ⑨ **As he learns more about the world, we can relax the limits.**  
 ⑩ **It(仮主語→that以下) is generally accepted [ that the full treatment takes about twenty years ] . ... so we have another eighteen years to go.**  
 「④私には小さな息子がいる。⑤息子が2歳まで生き延びてきたという事実は、主として普段はだらしのない親が細心の注意を払ったためである。⑥息子が生まれてきて以来、我々は物を片付けるようになった。⑦のこざりやのみを目の届かないところに置き、はしごを立てかけばなしにせず、寝かせて置き、庭の門も閉めておく。⑧要するに、息子が試しに何かをやってみる機会は限度内におさめられ、その結果、息子は経験によって自由に学習する間、ひどいけがをすることはないというかなりの確信が持てる。⑨息子の世の中に関する知識が増すにつれて、我々はその制限を緩めることができる。⑩一般に認められていることであるが、完全に面倒をみなければならない期間は20年を要する。まだ18年間は面倒を見てやらねばならない」

第④文から第⑩文まで、筆者は自分の2歳になる息子を例にあげています。特にその核心部分は第⑤文、および **in short** (要するに) という **Discourse Marker** で始まる第⑧文以降でまとめられています。つまり、

第⑤文：「人間の子供が生き延びることができるのは、親がかなりの面倒 (**care**)」をみてるため → 第⑧文：「危険にあわないよう親が面倒見てくれる間に子供は経験から学習する」

「人間の子供は、危険にあわないよう親がいろいろお膳立てをしてくれるために、環境との勝負に勝てる」という部分が、第②文で述べられている「不正行為」(1対1ではなく、親の助けをかりているという意味で) の〈具体例〉となっているわけです。

ここで第1パラグラフは終了しますが、続いて、先ほど確認したように、動物が行うもう1つの不正行為の例が第2パラグラフで述べられることを予想して見ていくことにします。

### 〔第2パラグラフ〕

- ⑪ **This** (⇒ 旧情報) is **one way** of rigging the survival game.  
 「これが生き残りゲームに不正を施す方法の1つである」  
 ⑫ **The other extreme way** is to have the right answers to all potentially disastrous experiments fitted in at the outset.  
 「もう1つの極端な方法は、悲惨な結果になる可能性を秘めた実験すべてに対する正しい対応の仕方を、最初から組み込んでおくことである」

**two extreme cases** のもう1つの例が **the other extreme case** ではっきりします。

英文の構造的には have ... fitted の部分は〈have ... 過去分詞〉(...を~してもらう、される)です。「最初から (at the outset) 組み込まれている」ということは、「先天的特質」のことなのですが、それは For example で始まる後続の第⑬文からでいっそうははっきりします。

- ⑬ **For example**, any sea anemone knows what is edible and what is not.  
 ⑭ It (= sea anemone) will grasp food with its tentacles and cram it into its mouth.  
 ⑮ It (= sea anemone) will reject inedible objects and close up when (it is) poked.  
 ⑯ A sea anemone does not learn to do **these things**; **these responses are built in** (←⑭ fit in) from the outset and they are unaltered by individual experience.  
 ⑰ You cannot teach anything to a sea anemone; it just does not learn.

「⑬例えば、どんなイソギンチャクでも食用になるものとならないものを知っている。⑭イソギンチャクは触手を使って食べ物をつかみ、口の中に押し込む。⑮イソギンチャクは食べられないものを拒絶し、つつかれると身体を閉じてしまう。⑯イソギンチャクはこうした行動を学習するのではない。こうした反応は最初から組み込まれており、個々の体験によって変わることはない。⑰イソギンチャクには何も教えることはできない。イソギンチャクは何も学習しないのである」

第⑯文の **built in** は第⑭文の **fitted in** の〈言い換え〉として用いられています。この2つ目の「動物が行う不正行為」とは、イソギンチャクを例に上げ、「あらかじめ、身を守るための特性が遺伝的に備わっている」ということが述べられています。

文章全体の展開を振り返ってみましょう。

すべての動物は環境と生死を賭けた勝負を行っている (導入：テーマの提示)

→ しかし、その勝負は公平といえない (自説：主張)

→ 動物は何らかの不正行為をおこなっている (根拠)

→ (不正行為の例1) 人間は危険に合わないよう周りが守り、その間に自分で生きる術を経験から学習する

→ (不正行為の例2) イソギンチャクは最初から危険から身を守る術を先天的に備えている

要約としてまとめる際の注意事項をひと言指摘しておきます。最初の後天的学習をする例として人間があげられ、第2パラグラフで述べられているもう1つの例として、イソギンチャクがあげられているわけですが、イソギンチャクとは人間以外の動物の

一例としてあげられているにすぎず、答案に「イソギンチャク」という語句を用いるのはあまり感心しません。できれば下に示すように、「下等動物」としたいところです。すなわち、「イソギンチャク」という〈具体例〉から「下等動物」に〈一般化〉、言葉を換えれば、〈具体例を抽象化〉するのが望ましいといえるでしょう。それに伴い、人間も「高等動物」と〈抽象化〉できればということはありません。

「生物はすべて生存のために環境と生死を賭けて勝負をするが、これには大別して成長するまで適当な保護を受けて経験から学ぶ高等動物と生存のための適切な対応が本能的にできる下等動物の二極があり、いずれも無条件な勝負にはならない。」(109字)

## これが真相!

### 〈抽象 → 具体〉の構成をとらえる

#### さらに、〈具体例からの抽象化〉も必要

**解答** 生物はすべて生存のために環境と生死を賭けて勝負をするが、これには大別して成長するまで適当な保護を受けて経験から学ぶ高等動物と生存のための適切な対応が本能的にできる下等動物の二極があり、いずれも無条件な勝負にはならない。(109字)

**訳例** (1) ①すべての動物はその環境と危険性をはらんだ勝負を行っている、すなわち、うまく行けば生き残ることができるが、一歩間違えると、不快なもの、さらには死を招くような決断を下さなければならない勝負である。②しかしながら、この勝負においては、公正な勝負は期待できない。というのも、実はその勝負は何らかの点で不正な仕掛けが行われており、そしかもすべての種は何らかの方法で不正行為を行うからである。③2つの極端な例を考えてみよう。まず、外部からの反応の仕方がほとんど個々の経験によって決められる動物の例として人間を考えてみよう。④私には小さな息子がいる。⑤息子が2歳まで生き延びてきたという事実は、主として普段はだらしのない親が細心の注意を払ったためである。⑥息子が生まれてきて以来、我々は物を片付けるようになった。⑦のこぎりやのみを目の届かないところに置き、はしごを立てかけっぱなしにせず、寝かせて置き、庭の門も閉めておく。⑧要するに、息子が試に何かをやってみる機会は限度内におさめられ、その結果、息子は経験によって自由に学習する間、ひどいけがをすることはないといふかなりの確信が持てる。⑨息子の世の中に関する知識が増すにつれて、我々はその制限を緩めることができる。⑩一般に認められていることであるが、完全に面倒をみなければならぬ期間は20年を要する。まだ18年間は面倒を見てやらねばならない。

(2) ①これが生き残りゲームに不正を施す方法の1つである。②もう1つの極端な方法は、悲惨な結果を招くかもしれないあらゆる試みに対する正しい対応の仕方が最初から組み込まれているということである。③例えば、どんなイソギンチャクでも食用になるものとならないものを知っている。④イソギンチャクは触手を使って食べ物をつかみ、口の中に押し込む。⑤イソギンチャクは食べられないものを拒絶し、つつかれると身体を閉じてしまう。⑥イソギンチャクはこうした行動を学習するのではない。こうした反応は最初から組み込まれており、個々の体験によって変わることはない。⑦イソギンチャクには何も教えることはできない。イソギンチャクは何も学習しないのである。